



## Multi-Node の設定

---

この章は、次の項で構成されています。

- [Multi-Node 設定の手順のサマリー, 1 ページ](#)
- [インベントリ データベースの作成, 2 ページ](#)
- [モニタリング データベースの作成, 4 ページ](#)
- [プライマリ ノードの作成, 5 ページ](#)
- [サービス ノードの作成, 7 ページ](#)
- [サービス ノードからプライマリ ノードへの URL リダイレクトの設定, 9 ページ](#)
- [システム タスク, 10 ページ](#)
- [Multi-Node 設定によるバックアップ, 15 ページ](#)
- [Multi-Node 設定による復元, 16 ページ](#)
- [サービス ノードの削除, 17 ページ](#)
- [スタンドアロン アプライアンス データベースをマルチノード設定に移行する, 18 ページ](#)

## Multi-Node 設定の手順のサマリー

Multi-Node 設定の大まかな設定手順の概要を次に示します。



- (注) マルチノード設定は慎重に計画してください。一度設定すると、ノードの再設定は非常に制限されます。[Multi-Node 設定のベストプラクティス](#)を参照してください。
- 

- ステップ 1** Multi-Node 設定の各ノードに Cisco UCS Director VM を導入します。  
詳細については、関連する[インストレーションガイド](#)を参照してください。

たとえば、プライマリ ノード、インベントリ データベース、モニタリング データベース、および 3 つの サービス ノードで Multi-Node 設定を行う場合、Cisco UCS Director VM は 6 つ導入します。

**ステップ 2** Cisco UCS Director ShellAdmin で、次の順にノードを設定します。

- a) インベントリ データベース ノード: [インベントリ データベースの作成, \(2 ページ\)](#)
- b) モニタリング データベース ノード: [モニタリング データベースの作成, \(4 ページ\)](#)
- c) プライマリ ノード: [プライマリ ノードの作成, \(5 ページ\)](#)
- d) サービス ノード: [サービス ノードの作成, \(7 ページ\)](#)

(注) インベントリ データベースとモニタリング データベースを作成してから、プライマリ ノードと サービス ノードを設定する必要があります。

**ステップ 3** プライマリ ノードに指定する Cisco UCS Director ノードでライセンス ファイルを更新します。他のノードではライセンス ファイルを更新する必要はありません。このリリースの[インストレーションガイド](#)の「ライセンスの更新」トピックを参照してください。

**ステップ 4** プライマリ ノードの Cisco UCS Director で、システム タスクを次のように設定します。

- a) システム タスクの割り当てをサービス ノード別に制御する必要がある場合は、1 つ以上のノード プールを作成します。それ以外の場合は、デフォルトのノード プールを受け入れます。  
[ノード プールの作成, \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- b) システム タスクの割り当てをサービス ノード別に制御する必要がある場合は、1 つ以上のシステム タスク ポリシーを作成します。それ以外の場合は、デフォルトのシステム タスク ポリシーを受け入れます。  
[システム タスク ポリシーの作成, \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- c) サービス ノードを設定します。
- d) プライマリ ノードを設定します。
- e) システム タスクの割り当てをサービス ノード別に制御する必要がある場合は、システム タスクをシステム ポリシーに割り当てます。  
[システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て, \(14 ページ\)](#) を参照してください。

詳細については、[システム タスク, \(10 ページ\)](#) を参照してください。

---

## インベントリ データベースの作成

**ステップ 1** インベントリ データベース ノード上で Cisco UCS Director shelladmin にログオンします。

(注) ノードに初めてログインする場合は、shelladmin パスワードを変更するように要求されます。

- ステップ 2** メニューから [マルチノード設定の実行 (高度な導入) (Configure Multi Node Setup (Advanced Deployment))] を選択し、Enter を押します。
- ステップ 3** メニューから [現在のノード (Current Node)] を選択して現在のノードを設定します。
- ステップ 4** プロンプトが表示されたら y を入力してマルチノードの設定を続行します。
- ステップ 5** メニューから、[小規模 (Small)]、[中規模 (Medium)]、[大規模 (Large)] のうちの該当する導入タイプ オプションを選択します。Multi-Node 設定のシステムの最小要件を参照してください。
- ステップ 6** メニューから [インベントリ データベースとして設定 (Configure as Inventory DB)] を選択し、Enter を押します。
- ステップ 7** プロンプトが表示されたら、y を入力し、インベントリ データベースとしてノードを設定します。
- ステップ 8** プロンプトが表示されたら、y を入力し、データベースを再初期化します。  
(注) データベースの再初期化には数分かかることがあります。
- ステップ 9** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースの管理パスワードを入力し、確認します。
- ステップ 10** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースのルートパスワードを入力し、確認します。
- ステップ 11** プロンプトが表示されたら、データベースの変更を反映するために y を入力してログアウトします。
- ステップ 12** ログアウトした後、インベントリ データベース ノード上で Cisco UCS Director shelladmin に再度ログオンします。  
(注) shelladmin に戻ると、メニュー オプションがインベントリ データベース ノードで使用できるオプションに変更されます。
- ステップ 13** インベントリ データベースのサービスが稼働していることを確認するために、[サービス ステータスの表示 (Display Services Status)] を選択して Enter を押します。  
次の行が表示されます。

```

Database          IP Address          State      Client              Connections
-----          -
Inventory         127.0.0.1          UP        172.22.234.10      14
                                     172.22.234.13      14

Volume            Mounted on         Size      Used      Available      %Use      Usage
-----          -
/dev/sda3         /                  97G      5.5G      86G            6%       NORMAL
/dev/sda1         /boot              194M     38M      147M           21%      NORMAL
infradb_vg-infradb_lv /infradb          99G      3.8G     95G            4%       NORMAL

Press return to continue ...

```

## モニタリング データベースの作成

- ステップ 1** モニタリング データベース ノード上で Cisco UCS Director shelladmin にログオンします。  
 (注) ノードに初めてログインする場合は、shelladmin パスワードを変更するように要求されます。
- ステップ 2** メニューから [マルチノード設定の実行 (高度な導入) (Configure Multi Node Setup (Advanced Deployment))] を選択し、Enter を押します。
- ステップ 3** メニューから [現在のノード (Current Node)] を選択して現在のノードを設定します。
- ステップ 4** プロンプトが表示されたら y を入力してマルチノードの設定を続行します。
- ステップ 5** メニューから、[小規模 (Small)]、[中規模 (Medium)]、[大規模 (Large)] のうちの該当する導入タイプ オプションを選択します。Multi-Node 設定のシステムの最小要件を参照してください。
- ステップ 6** メニューから [モニタリング データベースとして設定 (Configure as Monitoring DB)] を選択し、Enter を入力します。
- ステップ 7** プロンプトが表示されたら、y を入力し、モニタリング データベースとしてノードを設定します。
- ステップ 8** プロンプトが表示されたら、y を入力し、データベースを再初期化します。
- ステップ 9** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースの管理パスワードを入力し、確認します。
- ステップ 10** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースのルートパスワードを入力し、確認します。
- ステップ 11** プロンプトが表示されたら、データベースの変更を反映するために y を入力してログアウトします。
- ステップ 12** ログアウトした後、モニタリング データベース ノード上で Cisco UCS Director shelladmin に再度ログオンします。  
 (注) shelladmin に戻ると、メニュー オプションがモニタリング データベース ノードで使用できるオプションに変更されます。
- ステップ 13** モニタリング データベースのサービスが稼働していることを確認するために、[サービス ステータスの表示 (Display Services Status)] を選択して Enter を押します。  
 次の行が表示されます。

Database	IP Address	State	Client	Connections
Monitoring	127.0.0.1	UP	172.22.234.10 172.22.234.13	10 9

  

Volume	Mounted on	Size	Used	Available	%Use	Usage
/dev/sda3	/	97G	5.5G	86G	6%	NORMAL
/dev/sda1	/boot	194M	38M	147M	21%	NORMAL
infradb_vg-infradb_lv	/infradb	99G	3.8G	95G	4%	NORMAL

Press return to continue ...

## プライマリノードの作成

### はじめる前に

プライマリノードを作成する前に、インベントリデータベースとモニタリングデータベースを稼働しておく必要があります。



(注) プライマリノードでデーモンを実行しないでください。

- ステップ 1** プライマリノード上で Cisco UCS Director shelladmin にログオンします。  
(注) ノードに初めてログインする場合は、shelladmin パスワードを変更するように要求されます。
- ステップ 2** メニューから [マルチノード設定の実行 (高度な導入) (Configure Multi Node Setup (Advanced Deployment))] を選択し、Enter を押します。
- ステップ 3** メニューから [現在のノード (Current Node)] を選択して現在のノードを設定します。
- ステップ 4** プロンプトが表示されたら [y] を押して設定を続行します。
- ステップ 5** メニューから、[小規模 (Small)]、[中規模 (Medium)]、[大規模 (Large)] のうちの該当する導入タイプオプションを選択します。Multi-Node 設定のシステムの最小要件を参照してください。
- ステップ 6** メニューから [プライマリノードとして設定 (Configure as Primary Node)] を選択し、Enter を押します。
- ステップ 7** プロンプトが表示されたら、y を入力し、プライマリノードとしてノードを設定します。
- ステップ 8** プロンプトが表示されたら、設定する IP バージョン (IPv4 または IPv6) を選択し、Enter を押します。
- ステップ 9** [インベントリ DB IP の指定 (Provide Inventory DB IP)] プロンプトで、インベントリデータベースの Cisco UCS Director VM に割り当てられている IP アドレスを入力します。  
このステップで、VM がインベントリデータベースのプライマリノードとして登録されます。
- ステップ 10** [モニタリング DB IP の指定 (Provide Monitoring DB IP)] プロンプトで、モニタリングデータベースの Cisco UCS Director VM に割り当てられている IP アドレスを入力します。  
このステップで、VM がモニタリングデータベースのプライマリノードとして登録されます。
- ステップ 11** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースにログオンするための管理パスワードを入力し、確認します。
- ステップ 12** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースにログオンするためのルートパスワードを入力し、確認します。

(注) パスワードは、インベントリ データベースに指定したものと同一パスワードにする必要があります。インベントリ データベースの作成, (2 ページ) を参照してください。

**ステップ 13** プロンプトが表示されたら、モニタリング MySQL データベースにログオンするための管理パスワードを入力し、確認します。

**ステップ 14** プロンプトが表示されたら、モニタリング MySQL データベースにログオンするためのルートパスワードを入力し、確認します。

(注) パスワードは、モニタリング データベースに指定したものと同一パスワードにする必要があります。モニタリング データベースの作成, (4 ページ) を参照してください。

**ステップ 15** プロンプトが表示されたら、ノードへの変更を反映するために y を入力してログアウトします。

**ステップ 16** ログアウトした後、プライマリ ノード上で Cisco UCS Director shelladmin に再度ログオンします。

(注) shelladmin に戻ると、メニュー オプションがプライマリ ノードで使用できるオプションに変更されます。

**ステップ 17** プライマリ ノードのサービスが稼働していることを確認するために、[サービスステータスの表示 (Display Services Status) ] を選択して Enter を押します。

次の行が表示されます。

```

Service          State      PID        %CPU %MEM      tELAPSED #Threads
-----
broker           UP         23702      0.1  1.2      09:07:46 30
controller       UP         24267      0.0  0.9      09:07:01 73
eventmgr         UP         24515      0.4  5.5      09:06:15 42
idaccessmgr      UP         24656      0.4  5.4      09:06:10 78
inframgr         UP         24792      2.1 23.4     09:06:03 166
websocket        UP         24868      0.0  0.0      09:05:58 1
tomcat           UP         24922      0.1  4.1      09:05:52 54
flashpolicyd    UP         24952      0.0  0.0      09:05:36 1

Database         IP Address      State      Client          Connections
-----
Inventory         172.22.234.14   UP         172.22.234.10   15
                  172.22.234.13   14
Monitoring        172.22.234.17   UP         172.22.234.10   11
                  172.22.234.13   9

Volume           Mounted on      Size      Used      Available      %Use      Usage
-----
/dev/sda3        /                97G       5.6G      86G             7%        NORMAL
/dev/sda1        /boot           194M      38M       147M            21%       NORMAL
infradb_vg-infradb_lv /infradb        99G       3.8G      95G             4%        NORMAL

```

Press return to continue ...

(注) サービスの起動には、数分かかる場合があります。return を押し、[サービス ステータスの選択 (Select Services Status) ] を繰り返し選択することで、すべてのサービスが表示されるまでレポートを更新できます。

# サービスノードの作成

## はじめる前に

セカンダリノードを作成する前に、インベントリデータベースとモニタリングデータベースおよびプライマリノードを稼働しておく必要があります。

- ステップ 1** サービスノード上で Cisco UCS Director shelladmin にログオンします。  
(注) ノードに初めてログインする場合は、shelladmin パスワードを変更するように要求されま  
す。
- ステップ 2** メニューから [マルチノード設定の実行 (高度な導入) (Configure Multi Node Setup (Advanced Deployment))] を選択し、Enter を押します。
- ステップ 3** メニューから [現在のノード (Current Node)] を選択して現在のノードを設定します。
- ステップ 4** プロンプトが表示されたら [y] を押して設定を続行します。
- ステップ 5** メニューから、[小規模 (Small)]、[中規模 (Medium)]、[大規模 (Large)] のうちの該当する導入タイプ オプションを選択します。Multi-Node 設定のシステムの最小要件を参照してください。
- ステップ 6** メニューから [サービスノードの設定 (Configure Service Node)] を選択し、Enter を押します。
- ステップ 7** プロンプトが表示されたら、y を入力し、ノードをセカンダリノードとして設定します。
- ステップ 8** プロンプトが表示されたら、設定する IP バージョン (IPv4 または IPv6) を選択し、Enter を押します。
- ステップ 9** [インベントリ DB IP の指定 (Provide Inventory DB IP)] プロンプトで、インベントリデータベースの Cisco UCS Director VM に割り当てられている IP アドレスを入力します。  
このステップで、VM がインベントリデータベースのサービスノードとして登録されます。
- ステップ 10** [モニタリング DB IP の指定 (Provide Monitoring DB IP)] プロンプトで、モニタリングデータベースの Cisco UCS Director VM に割り当てられている IP アドレスを入力します。  
このステップで、VM がモニタリングデータベースのサービスノードとして登録されます。
- ステップ 11** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースにログオンするための管理パスワードを入力し、確認します。
- ステップ 12** プロンプトが表示されたら、インベントリ MySQL データベースにログオンするためのルートパスワードを入力し、確認します。  
(注) パスワードは、インベントリデータベースに指定したものと同一パスワードにする必要があります。インベントリデータベースの作成、(2 ページ) を参照してください。
- ステップ 13** プロンプトが表示されたら、モニタリング MySQL データベースにログオンするための管理パスワードを入力し、確認します。
- ステップ 14** プロンプトが表示されたら、モニタリング MySQL データベースにログオンするためのルートパスワードを入力し、確認します。

(注) パスワードは、モニタリングデータベースに指定したものと同一パスワードにする必要があります。モニタリングデータベースの作成、(4 ページ) を参照してください。

**ステップ 15** プロンプトが表示されたら、ノードへの変更を反映するために `y` を入力してログアウトします。

**ステップ 16** ログアウトした後、セカンダリノード上で Cisco UCS Director shelladmin に再度ログオンします。

(注) shelladmin に戻ると、メニュー オプションがセカンダリ ノードで使用できるオプションに変更されます。

**ステップ 17** サービス ノードのサービスが稼働していることを確認するために、[サービスステータスの表示 (Display Services Status) ] を選択して Enter を押します。

次の行が表示されます。

```

Service          State      PID        %CPU %MEM      tELAPSED #Threads
-----
broker           UP        22445      0.1  1.2      09:18:59 30
controller      UP        22576      0.0  0.8      09:18:14 74
eventmgr        UP        22727      0.4  5.6      09:17:28 43
idaccessmgr     UP        22869      0.4  5.1      09:17:23 43
inframgr        UP        23005      1.7 17.6     09:17:16 64
websocket       UP        23081      0.0  0.0      09:17:11 1
tomcat          UP        23135      0.1  4.1      09:17:05 52
flashpolicyd   UP        23165      0.0  0.0      09:16:49 1

Database        IP Address      State      Client          Connections
-----
Inventory       172.22.234.14  UP        172.22.234.10  14
                172.22.234.13  15
Monitoring     172.22.234.17  UP        172.22.234.10  10
                172.22.234.13  10

Volume          Mounted on      Size      Used      Available      %Use      Usage
-----
/dev/sda3       /                97G       5.6G      86G             7%        NORMAL
/dev/sda1       /boot           194M      38M       147M            21%       NORMAL
infradb_vg-infradb_lv /infradb       99G       3.8G      95G             4%        NORMAL

```

Press return to continue ...

(注) サービスの起動には、数分かかる場合があります。return を押し、[サービス ステータスの選択 (Select Services Status) ] を繰り返し選択することで、すべてのサービスが表示されるまでレポートを更新できます。

**ステップ 18** すべてのサービス ノードに対してこの手順を繰り返します。



# サービスノードからプライマリノードへの URL リダイレクトの設定

サービスノードからプライマリノードへの自動リダイレクトを有効化できます。ユーザがサービスノードから Cisco UCS Director アプライアンスにログオンしようとする、自動リダイレクトでプライマリノードのアプライアンスに移動します。自動リダイレクトを有効にするには、プライマリノードの Cisco UCS Director アプライアンスの [電子メール設定 (Mail Setup)] ペインで、プライマリノード IP アドレスを追加します。次の手順を実行します。

## はじめる前に

サービスノードからプライマリノードへの URL リダイレクトを設定する前に、プライマリノードとサービスノードを設定します。

**ステップ 1** メニューバーで、[管理者 (Administration)] > [システム (System)] の順に選択します。

**ステップ 2** [電子メール設定 (Mail Setup)] タブを選択します。

**ステップ 3** [電子メール設定 (Mail Setup)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[送信電子メール サーバ (SMTP) (Outgoing Email Server (SMTP)) ]	プライマリノードの送信 SMTP サーバアドレス。
[送信 SMTP ポート (Outgoing SMTP Port) ]	プライマリノードの送信 SMTP サーバのポート番号。
[送信 SMTP ユーザ (Outgoing SMTP User) ]	プライマリノードのユーザ ID。
[送信 SMTP パスワード (Outgoing SMTP Password) ]	プライマリノードのユーザパスワード。
[送信電子メールの送信者の電子メールアドレス (Outgoing Email Sender Email Address) ]	プライマリノードの送信者の電子メールアドレス。
[サーバ IP アドレス (Server IP address) ]	プライマリノードの IP アドレスまたは DNS 名。サービスノードはここで指定される IP アドレスにリダイレクトします。
[テストメールの送信 (Send Test Email) ]	現行の電子メール設定をテストするには、オンにします。

## システム タスク

[システムのタスク (System Tasks)] 画面には、現在 Cisco UCS Director で利用可能なすべてのシステム タスクが表示されます。ただし、このシステム タスクのリストは、Cisco UCS Director で作成したアカウントのタイプにリンクされています。たとえば、初めてログインした場合は、一連の汎用システム関連のタスクまたは VMware 関連タスクだけがこのページに表示されます。ラック アカウントや Cisco UCS Manager アカウントなどのアカウントを追加した際に、これらのアカウントに関連するシステム タスクがこのページに読み込まれます。

以下は、[システムのタスク (System Tasks)] 画面から完了できるタスクです。

- 使用可能なシステム タスクの参照：[展開 (Expand)] および [折りたたむ (Collapse)] オプションを使用して、このページで使用可能なすべてのシステムタスクを表示できます。タスクは Cisco UCS Director で使用可能なアカウントに従って分類されます。例：Cisco UCS タスク、NetApp タスクなど。
- システムタスクの無効化と有効化：アプライアンスで実行しているプロセスまたはタスクが複数ある状況において、システム タスクの無効化を選択することができます。無効にすると、手動で有効にするまで、システムタスクは実行されません。これは他のレポートに入力されるデータに影響します。たとえば、インベントリ収集のシステムタスクを無効にすると、このデータが必要なレポートに正確なデータが表示されない場合があります。この場合、インベントリ収集プロセスを手動で実行するか、システムタスクを有効にする必要があります。

詳細については、[システム タスクの有効化または無効化](#)、(15 ページ) を参照してください。

サーバが 1 台しかない Single-Node 設定では、すべてのシステム タスクがこのサーバで実行されます。複数のサーバが設定されている Multi-Node 設定では、デフォルトですべてのシステム タスクがプライマリ サーバで実行されます。ただし、セカンダリ サーバで実行するシステム タスクを指定できます。次に示すのは、このタスクを実行する推奨手順です。

- 1 セカンダリ サーバがノードとして Cisco UCS Director で使用できることを確認します。サーバが使用できない場合、サーバをノードとして追加する必要があります。[サービス ノードの作成](#)、(12 ページ) を参照してください。
- 2 使用可能なサーバからノードプールを作成します。[ノードプールの作成](#)、(11 ページ) を参照してください。
- 3 システム タスク ポリシーを作成し、ノード ポリシーと関連付けます。[システム タスク ポリシーの作成](#)、(11 ページ) を参照してください。
- 4 ノードプールをシステム タスク ポリシーと関連付けます。[システム タスク ポリシーへのノードプールの割り当て](#)、(12 ページ) を参照してください。
- 5 システム タスクを選択し、システム タスク ポリシーと関連付けます。[システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て](#)、(14 ページ) を参照してください。

## ノード プールの作成

- 
- ステップ 1 [管理 (Administration) ]>[システム (System) ]を選択します。
  - ステップ 2 [システム (System) ] ページで、[サービス ノード (Service Nodes) ] をクリックします。
  - ステップ 3 [サービス ノード プール (Service Node Pool) ] をクリックします。
  - ステップ 4 [サービス ノード プール (Service Node Pool) ] 画面で、[追加 (Add) ] をクリックします。
  - ステップ 5 [サービス ノード プールにエントリを追加 (Add Entry to Service Node Pools) ] 画面で、[名前 (Name) ] フィールドにノード プール名を入力します。
  - ステップ 6 (任意) [説明 (Description) ] フィールドに、ノード プール名の説明を入力します。
  - ステップ 7 [送信 (Submit) ] をクリックします。ノード プールが作成されます。
- 

## システム タスク ポリシーの作成

管理者は、いくつかのポリシーの結合、システムタスクポリシーの作成をデフォルトのシステムタスクポリシーに加えて、選択することができます。複数のシステムタスクを1つのシステムタスクポリシーとしてグループ化して、どのシステムタスクがどのノードで実行されるかを後で決定できます。

- 
- ステップ 1 [管理 (Administration) ]>[システム (System) ]を選択します。
  - ステップ 2 [システム (System) ] ページで、[システム タスク ポリシー (System Task Policy) ] をクリックします。
  - ステップ 3 [追加 (Add) ] をクリックします。
  - ステップ 4 [追加 (Add) ] 画面で、システム タスク ポリシーに指定した名前を [名前 (Name) ] フィールドに入力します。
  - ステップ 5 (任意) [説明 (Description) ] フィールドに、システム タスク ポリシーの説明を入力します。
  - ステップ 6 [ノード プール (Node Pool) ] ドロップダウンリストから、このシステム タスク ポリシーが属するノード プールを選択します。
  - ステップ 7 [送信 (Submit) ] をクリックします。  
選択したノード プールは、新しく作成されたシステム タスク ポリシーに属するようになりました。
-

## システム タスク ポリシーへのノード プールの割り当て

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システム (System)] を選択します。
- ステップ 2** [システム (System)] ページで、[システム タスク ポリシー (System Task Policy)] をクリックします。
- ステップ 3** ノード プールを割り当てるシステム タスク ポリシーを含む行をクリックします。
- ステップ 4** [編集 (Edit)] をクリックします。  
 (注) デフォルトのシステム タスク ポリシーが使用されている場合、このポリシーにサービス ノードを割り当てることができます。デフォルトとは異なるポリシーを設定する場合は、[システム タスク ポリシーの作成](#)、(11 ページ) を参照してください。
- ステップ 5** [ノード プール (Node Pool)] ドロップダウン リストから、システム タスク ポリシーに割り当てるノード プールを選択します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] をクリックします。  
 選択したノード プールは、このシステム タスクのポリシーに属することになります。

## サービス ノードの作成

- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システム (System)] を選択します。
- ステップ 2** [システム (System)] ページで、[サービス ノード (Service Nodes)] をクリックします。
- ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [サービス ノード (Service Node)] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[ノード名 (Node Name)] フィールド	サービス ノードの名前。
[ロール (Role)] フィールド	このフィールドは編集できません。デフォルトでは、このフィールドには、[サービス (Service)] をこのノードのロールとして表示します。
[サービス ノード プール (Service Node Pool)] ドロップダウン リスト	デフォルトでは、[デフォルト サービス ノード プール (default-service-node-pool)] タブが表示されます。

名前	説明
[DNS 名 (DNS Name) ] フィールド	サービスノードの DNS 名または IP アドレスを入力します。  (注) このフィールドには、プライマリ ノードの IP アドレスは使用できません。有効なサービスノード DNS 名または IP アドレスが入力されていることを確認します。
[説明 (Description) ] フィールド	サービスノードの説明。
[プロトコル (Protocol) ] ドロップダウンリスト	[http] (デフォルト) または [https] を選択します。
[ポート (Port) ] フィールド	Hypertext Transfer Protocol (HTTP) のデフォルトの TCP ポートは、デフォルトでは 80 が入力されます。必要に応じて異なる TCP ポートを入力します。
[ユーザ名 (UserName) ] フィールド	デフォルトでは、ユーザ名 <code>infraUser</code> が入力されます。  <code>infraUser</code> は、デフォルトで作成されるユーザアカウントです。メニューバーからこのユーザアカウントを検索するには、[管理 (Administration) ] > [ユーザとグループ (Users and Groups) ] を選択します。  [ログインユーザ (Login Users) ] をクリックし、[ログイン名 (Login Name) ] 列で <code>infraUser</code> ユーザアカウントを見つけます。  (注) <code>InfraUser</code> ユーザ名はシステム自体にログインするデフォルトの管理者ユーザではありません。  別のユーザ名をこのフィールドに追加できます。サービスノードでの認証に、このユーザの API キーが使用されます。

ステップ 5 [送信 (Submit) ] をクリックします。

## システム タスクへのシステム ポリシーの割り当て

- 
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システム (System)] を選択します。
- ステップ 2** [システム (System)] ページで、[システム タスク (System Tasks)] をクリックします。
- ステップ 3** システム タスクが含まれているフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。  
(注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
- ステップ 4** タスクを選択し、[タスクの管理 (Manage Task)] をクリックします。  
[タスクの管理 (Manage Task)] 画面が表示されます。
- ステップ 5** [タスク実行 (Task Execution)] ドロップダウン リストから [有効化 (Enable)] を選択します。
- ステップ 6** [システムタスクポリシー (System Task Policy)] ドロップダウン リストからシステム ポリシーを選択します。
- ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。  
選択したシステム ポリシーにシステム タスクが割り当てられます。
- 

## システム タスクの実行

Cisco UCS Director では、サービス ノードでリモートで実行できないシステム タスクが含まれます。システム ポリシーは、ローカル ホストまたはプライマリ ノードからリモートで割り当てることもできます。

また、特定のシステム タスクを検索および選択でき、システムですぐに実行します。

- 
- ステップ 1** [管理 (Administration)] > [システム (System)] を選択します。
- ステップ 2** [システム (System)] ページで、[システム タスク (System Tasks)] をクリックします。
- ステップ 3** リストからタスクを選択します。
- ステップ 4** [今すぐ実行 (Run Now)] をクリックします。  
システム タスクを実行した結果がユーザ インターフェイスに更新されます。
-

## システム タスクの有効化または無効化

- 
- ステップ 1** [管理 (Administration) ] > [システム (System) ] を選択します。
- ステップ 2** [システム (System) ] ページで、[システム タスク (System Tasks) ] をクリックします。
- ステップ 3** 1 つ以上のシステム タスクを含むフォルダを選択します。フォルダの矢印をクリックして、タスクを展開します。  
(注) 128 のシステム タスクが使用可能です。
- ステップ 4** タスクを選択し、[タスクの管理 (Manage Task) ] をクリックします。  
[タスクの管理 (Manage Task) ] 画面が表示されます。
- ステップ 5** システム タスクを無効にするには、[タスクの実行 (Task Execution) ] ドロップダウン リストから [無効 (Disable) ] を選択します。
- ステップ 6** システム タスクを有効にするには、[タスクの実行 (Task Execution) ] ドロップダウン リストから [有効 (Enable) ] を選択します。
- ステップ 7** [送信 (Submit) ] をクリックします。
- 

## Multi-Node 設定によるバックアップ

Multi-Node 設定のバックアップに必要な手順の概要を以下に示します。

バックアップ手順を開始するには、最初にシスコ サービスを停止することが必要です。この操作は、モニタリングデータベースとインベントリデータベースを使用する前に実行する必要があります。次に、データベースをバックアップします。この後、プライマリ ノードからサービスを再起動します。

### はじめる前に

データベースをバックアップするには、FTP サーバを使用します。この場合、以下の情報が必要となります。

- FTP サーバのアカウントと IP アドレス
- FTP サーバのログイン クレデンシヤル
- バックアップ ファイル名

## 手順の概要

1. プライマリ ノードとサービス ノードの両方でサービスをシャットダウンします。シェルの [サービスの停止 (Stop Services) ] オプションを使用します。
2. モニタリング データベースをバックアップします。シェルの [データベースのバックアップ (Backup Database) ] オプションを使用します。
3. インベントリ データベースをバックアップします。シェルの [データベースのバックアップ (Backup Database) ] オプションを使用します。
4. サービスを開始します (最初にサービス ノード、続けてプライマリ ノードの順)。シェルの [サービス開始 (Start Services) ] を使用します。

## 手順の詳細

- 
- ステップ 1** プライマリ ノードとサービス ノードの両方でサービスをシャットダウンします。シェルの [サービスの停止 (Stop Services) ] オプションを使用します。
- ステップ 2** モニタリング データベースをバックアップします。シェルの [データベースのバックアップ (Backup Database) ] オプションを使用します。
- ステップ 3** インベントリ データベースをバックアップします。シェルの [データベースのバックアップ (Backup Database) ] オプションを使用します。
- ステップ 4** サービスを開始します (最初にサービス ノード、続けてプライマリ ノードの順)。シェルの [サービス開始 (Start Services) ] を使用します。
- 

# Multi-Node 設定による復元

Multi-Node 設定の復元に必要な手順の概要を以下に示します。

復元手順を開始するには、最初にシスコサービスを停止することが必要です。この操作は、モニタリングデータベースとインベントリデータベースを使用する前に実行する必要があります。次に、データベースを復元します。この後、プライマリ ノードからサービスを再起動します。

## はじめる前に

データベースを復元するには、FTP サーバを使用します。この場合、以下の情報が必要となります。

- FTP サーバのアカウントとサーバの IP アドレス
- FTP サーバのログイン クレデンシャル
- バックアップ ファイル名



## 手順の概要

1. プライマリ ノードとサービス ノードの両方でサービスをシャットダウンします。シェルの [サービスの停止 (Stop Services) ] オプションを使用します。
2. モニタリングデータベースを復元します。シェルの [データベースの復元 (Restore Database) ] オプションを使用します。
3. インベントリデータベースを復元します。シェルの [データベースの復元 (Restore Database) ] オプションを使用します。
4. サービスを開始します (最初にサービス ノード、続けてプライマリ ノードの順) 。シェルの [サービスの開始 (Start Services) ] オプションを使用します。

## 手順の詳細

- 
- ステップ 1** プライマリ ノードとサービス ノードの両方でサービスをシャットダウンします。シェルの [サービスの停止 (Stop Services) ] オプションを使用します。
- ステップ 2** モニタリング データベースを復元します。シェルの [データベースの復元 (Restore Database) ] オプションを使用します。
- ステップ 3** インベントリ データベースを復元します。シェルの [データベースの復元 (Restore Database) ] オプションを使用します。
- ステップ 4** サービスを開始します (最初にサービス ノード、続けてプライマリ ノードの順) 。シェルの [サービスの開始 (Start Services) ] オプションを使用します。
- 

# サービス ノードの削除

次に、Multi-Node 設定からのサービス ノードの削除に必要な手順の概要を示します。

削除手順を開始するには、最初にシスコ サービスを停止することが必要です。この操作は、モニタリング データベースとインベントリ データベースからサービス ノードを削除する前に実行する必要があります。

- 
- ステップ 1** プライマリ ノードとサービス ノードの両方でサービスをシャットダウンします。シェルの [サービスの停止 (Stop Services) ] オプションを使用します。
- ステップ 2** 保持するサービス ノードのサービスを開始します。シェルの [サービスの開始 (Start Services) ] オプションを使用します。
- ステップ 3** プライマリ ノードのサービスを開始します。シェルの [サービスの開始 (Start Services) ] オプションを使用します。
- ステップ 4** Cisco UCS Director の GUI を使用して、削除するサービス ノードを削除します。

これにより、データベースからサービス ノードが削除されます。

## スタンドアロンアプライアンス データベースをマルチノード設定に移行する

この手順では、インベントリデータベースとモニタリングデータベースそれぞれに必要なデータベース テーブルのみを選択して、バックアップし復元します。

**ステップ 1** shelladmin で、[Root でログイン (Login as Root) ] を選択し、Cisco UCS Director にログインします。

**ステップ 2** インベントリ データベースに必要なデータベース テーブルを次のようにバックアップします。

a) /opt/infra フォルダにアクセスします。

```
cd /opt/infra
```

b) infra から、dbInfraBackupRestore.sh スクリプトを実行します。

```
# ./dbInfraBackupRestore.sh backup
```

このスクリプトは、インベントリ データベースに必要なテーブルのデータベース バックアップを行います。

c) スクリプトを実行後に、/tmp フォルダにある infra\_database\_backup.tar.gz という名前の出力ファイルを確認します。

**ステップ 3** モニタリング データベースに必要なデータベース テーブルを次のようにバックアップします。

a) /opt/infra フォルダにアクセスします。

```
cd /opt/infra
```

b) infra から、dbMonitoringBackupRestore.sh スクリプトを実行します。

```
# ./dbMonitoringBackupRestore.sh backup
```

このスクリプトは、モニタリングデータベースに必要なテーブルのデータベース バックアップを行います。

c) スクリプトを実行後に、/tmp フォルダにある monitoring\_database\_backup.tar.gz という名前の出力ファイルを確認します。

**ステップ 4** Multi-Node 設定の各ノードに Cisco UCS Director VM を導入します。

たとえば、プライマリ ノード、インベントリ データベース、モニタリング データベース、および 3 つのサービス ノードで Multi-Node 設定を行う場合、Cisco UCS Director VM は 6 つ導入します。

**ステップ 5** shelladmin で、次の順にノードを設定します。

- 1 インベントリ データベース。 [インベントリ データベースの作成, \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- 2 モニタリング データベース。 [モニタリング データベースの作成, \(4 ページ\)](#) を参照してください。
- 3 プライマリ ノード。 [プライマリ ノードの作成, \(5 ページ\)](#) を参照してください。
- 4 1つ以上のサービス ノード。 [サービス ノードの作成, \(7 ページ\)](#) を参照してください。

(注) インベントリ データベースおよびモニタリングデータベースのノードは、プライマリ ノードやサービス ノードを設定する前に作成し起動する必要があります。

**ステップ 6** shelladmin で、[サービスの停止 (Stop services) ]を選択して、プライマリ ノードおよびすべてのサービスノードの Cisco UCS Director サービスを停止します。

**ステップ 7** 次のように、インベントリ データベースにデータベースを復元します。

- a) インベントリ データベース ノードで `infra_database_backup.tar.gz` を /tmp フォルダにコピーします。
- b) インベントリ データベース ノードで /opt/infra フォルダにアクセスします。

```
cd /opt/infra
```

- c) infra から、`dbInfraBackupRestore.sh` スクリプトを実行します。

```
# ./dbInfraBackupRestore.sh restore
```

このスクリプトにより、/tmp フォルダのバックアップ ファイルからデータベース バックアップが復元されます。

**ステップ 8** 次のように、モニタリング データベースにデータベースを復元します。

- a) モニタリング データベース ノードで `monitoring_database_backup.tar.gz` を /tmp フォルダにコピーします。
- b) /opt/infra フォルダにアクセスします。

```
cd /opt/infra
```

- c) infra から、`dbMonitoringBackupRestore.sh` スクリプトを実行します。

```
# ./dbMonitoringBackupRestore.sh restore
```

このスクリプトにより、/tmp フォルダのバックアップ ファイルからデータベース バックアップが復元されます。

**ステップ 9** プライマリ ノードおよびすべてのサービス ノードで[サービスの開始 (Start services) ]を選択して、Cisco UCS Director サービスを開始します。

プライマリ ノードにログイン後は、Cisco UCS Director スタンドアロン アプライアンスのデータベースのすべてのデータが利用可能になります。